

重点指標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	分析(成果と課題)及び改善策
1 確かな学力の育成	生徒に授業の大切さを伝えるとともに、「分かる楽しさ」「できる喜び」「学ぶ面白さ」が味わえる授業づくりに努める。	教材研究に取り組み、「授業が良くわかる」と回答する生徒を増やしている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D60%未満	生徒アンケート 肯定的評価95% 【判定:A】	付きたい力を明確にした教材研究と、生徒をやる気にさせる指導・評価計画・テストの作成を目標に先生方が授業改善に取り組んでいる成果が出ている。今後は生徒たちに見通しを与え、自律的な学習者に育てて行くことが目標である。
	付きたい力が効果的に身に付く言語活動を設定したり、ICT活用を推進したりする。	授業で生徒の間で話し合う活動がよく行われ、自分の考えを発表したり話し合ったりすることが大切であると実感している。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	生徒アンケート 肯定的評価97% 【判定:A】	各教科において、学習の目標や狙いを達成するために、効果的にグループやペアでの活動を取り入れてきていることが評価されている。ただ、その場合でも個人思考の場面が足りなかったり、最後の全体での意見交流(振り返り)がなかったりするなど、まだ課題が見受けられる。ICTの活用については教職員の意識も高まってきて、タブレット、プロジェクター等の使用頻度もあがってきている。
	基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、やらせきる指導を行う。	やらせきる指導を行い、学力推移調査や定期テストにおいて、下位層を減らすまたは増やさないことができています。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	教職員アンケート肯定的評価85% 学力推移調査(1回と2回の比較) 下位層の人数 1年6人 2年2人 3年2人 減少 【判定:A】	昨年度まで一律に課せられていた課題を、今年度は「必須課題」と「選択課題」に分けて、生徒の能力に応じて選べるようにした。必ずやらせきる課題(必須課題)への取り組みが徹底しやすくなったが、まだ試行錯誤の段階であり、今後も研究、改良を継続していく必要がある。
	論理的な思考力・表現力を育成するため、根拠や筋道を明確にして、説明や論述をさせる指導を行う。	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導し、生徒の「論理的な思考力・表現力」を伸ばすことができています。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	教職員アンケート肯定的評価95% 学力推移調査(1回と2回の比較) 偏差値の推移 1年 3.7 2年2.2 アップ 3年 0.4ダウン 【判定:A】	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導することは、本校が指導の重点として継続してきたことである。どの教科でも論理的思考につながる言語活動の工夫・改善が継続して行われ、生徒の論理的思考力を伸ばすことができています。
	批判的思考力を育成するため、課題設定、発問、学習形態等を工夫する。	多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、生徒の「批判的思考力」を伸ばすことができています。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	教職員アンケート肯定的評価90% 【判定:A】	2年前より「多様な観点から考察する力の育成」を研究の柱としていたが、その成果がでている。今年度はそれを発展させて生徒の「批判的思考力」の育成を目指している。課題設定、発問、学習形態用の工夫のさらなる研究の必要がある。
	自律的な学習習慣が身に付くよう指導・評価計画とテスト作成を工夫する。	計画的に学習を進め、週あたりの家庭学習時間の目標を達成している。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	保護者アンケート肯定的評価78% 生徒アンケート肯定的評価65% 【判定:B】	教師は家庭学習の習慣化及び目標学習時間の達成に向けて、工夫して課題を与えたり、集計の結果を知らせたりして家庭学習の習慣化に向けて努力している。しかし、保護者や生徒はまだ「学習習慣が身に付いた」とまでの評価はしていない。今後も課題の量や取り組み方を工夫し学習習慣の定着につなげたい。
	資格取得や各種コンクール等への積極的な参加を促し、自ら学び、創造性を伸ばそうとする生徒を育てる。	英検の取得率(4級は中2、3級は中3、準2級は高1レベル) 1年 2年 3年 A4級55%以上 3級60%以上 準2級50%以上 B4級50%以上 3級50%以上 準2級40%以上 C4級45%以上 3級40%以上 準2級30%以上 D4級45%未満 3級40%未満 準2級30%未満	1年 60% 【判定:A】 2年 69% 【判定:A】 3年 60% 【判定:A】	英語は国レベルで強化が進んでおり、今年度は英検の全員受検に取り組んだ。英語教室に目標を掲示したり、英語の時間に指導したりするなど、少しでも上の目標が達成できるように取り組んだ。その結果、昨年度の同時期に比べて各学年とも10ポイント以上取得率が上がった。
	朝の全校読書に取り組み、読書の習慣化を図る。	読書の時間は集中して読書しており、普段でも読書に親しんでいる。 肯定的評価が A85%以上 B80%以上 C75%以上 D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価79% 【判定:C】	今年度より全学年で朝読書に取り組んでいるので、朝の時間はどの学年も静寂のなか読書をしている。今後は「読書の日」での「ブックトーク」の取り組みをさらに増やしたり、国語を中心に読書に取り組むことを推進したりするなど読書活動を充実していきたい。

<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・やらせきる指導、論理的な思考や表現力を育てる指導で良好な結果が出ていると思う。新学習指導要領でも重点となっている。教科の中でプログラミング的思考も育ててもらいたい。 「授業の初めに見通しを立てたり、振り返ったりする機会がある。」の項目の最も良い評価の部分が少し減っているのが頑張ってほしい。「話し合う活動」が実感できる指導も頑張ってほしい。 ・読書は読む・書く・話すことの基礎となり、社会人になってからも大切である。最近では高峰賞などの理数系で結果が出ているが、読書の習慣化に努力してほしい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>・考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導することは、本校が指導の重点として継続してきたことである。どの教科でも論理的思考につながる言語活動の工夫・改善を次年度も継続して行っていく。 ・ビブリオバトルを中高合同で行って盛り上がった。ブックトークも頑張っているので教科と連携も考えていきたい。</p>

重点指標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	分析(成果と課題)及び改善策
<p>2 豊かな心や人間性、社会性育成</p>	<p>2-1 道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて、理想の実現や思いやりの心、より良い社会の実現を目指すなどの道徳性を育む。</p>	<p>道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、生徒が自己の成長や思いやりの心が深まったことを感じている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満</p>	<p>生徒アンケート 肯定的評価79% 【判定:D】</p>	<p>道徳教育推進教師のリーダーシップのもと、一人一人の教師が道徳の授業をより大切に、改善に努めてきた。また、研究授業、互見授業を通して、道徳の授業の質は確実に上がってきている。また、道徳通信を発行し、授業や学校の取り組みの様子を知らせることで、家庭との連携も深めている。今後も「考えさせる道徳・議論する道徳」のため、授業研究を継続的に行っていきたい。</p>
	<p>2-2 総合的な学習の時間や特活の時間を中心にキャリア教育を実践し、生徒の視野を広げ将来の夢や目標について考える取組を行う。</p>	<p>将来の夢や目標を持っている。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満</p>	<p>生徒アンケート 肯定的評価76% 【判定:B】</p>	<p>各学年とも狙いを明確にし、それに沿って職場体験、修学旅行等の体験活動を計画、実施している。また、個人面談や先輩(高校生・大学生など)に話を聞く機会などを積み重ね、将来の目標を定め、それに向けて努力できる生徒を育てている。</p>
	<p>2-3 学級会活動や生徒会活動において、1年生から段階的に話し合い活動や自治的な活動に取り組ませ、自主的・実践的な態度を育てる。</p>	<p>色々な活動や取組に対して、自分で考えて自主的に取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満</p>	<p>生徒アンケート 肯定的評価76% 【判定:C】</p>	<p>言われたことは確実にできるのだが、自分で考えて進んで行動することがなかなかできない。本校の生徒の大きな課題である。今年度は生徒に全校朝礼や行事の司会・運営をさせたり、ボランティアサークルを募集し活動させたりと、生徒自ら考えて行動する機会をつくってきた。今後もそのような機会をできるだけ設定し、生徒が能動的に行動できる様にしていく。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・職場体験で同窓会のOBの職場を利用してほしい。事務局も常設しているので、是非協力したい。 ・キャリア講演会を年3回行っているそうだが、内容はどのようなものだったのか。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>・うちの学校は地域がないので、同窓会にお願いできるのはありがたい。是非活用したい。 ・1回目は本校も元ALTに日本とアメリカ教育の違いをオールイングリッシュで行った。2回目は人口知能についての講演で、3回目は先日行ったのもで、大学の教授を招いて12講座を開き、縦割りグループで参加した。2回目は中高合同で行った。今後も生徒の興味をひく講師を招聘したい。</p>			

3	よりよい校風の樹立と発展に努める態度の育成	3-1	社会人マナーとしての気持ちの良い挨拶と礼儀・礼節を大切に する生徒を育成する。	誰に対しても、大きな声で自分から気持ちの良い挨拶ができて いる。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	生徒アンケート 肯定的評価62% 【判定:C】	様々な場面で、教師と代表生徒が挨拶運動を行っているが、多くの生徒は気持ちよく返して くれるのだが、自分から進んで挨拶できない生徒も多い。グッドマナーキャンペーンの保護者の意見からも、登校時の地域の方に対する挨拶も不十分であることが分かる。生徒や保護者の評価はそれほど悪くないのだがやや甘い基準であると考えられるので、今後もあいさつ運動などの取組の強化とともに「なぜ挨拶をしなければならないか？」等の心の指導をしていく必要がある。
		3-2	錦中生としての自信と誇りを持ち、学校内外を通じてルールを守り、きちんとした身なりができる生徒を育成する。	錦中生としての自信と誇りを持ち、時間を守り、学校内外を問わず正しい身なりをしている。 肯定的評価が A95%以上 B90%以上 C85%以上 D85%未満	生徒アンケート 肯定的評価95% 【判定:A】	「正しい身なりをし、ルールを守って生活している」を肯定的に回答した生徒はほとんどで、おむね規範意識は育っていると考えられる。今後もきまりを誠実に守ることができるように継続的な指導を行う必要がある。
		3-3	健康な生活の維持向上に努めるとともに、部活動を通して心身ともに逞しい生徒を育成する。	規則正しい生活をするとともに部活動を通して心身ともに逞しくなってきた。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	生徒アンケート 肯定的評価89% 【判定:B】	90%近くの生徒が部活動を通して心身ともに成長していると評価している。また、保護者アンケートでも肯定的な評価が89%で、保護者も、部活動を通しての生徒の人間的な成長に対して評価していることが分かる。
学校関係者評価委員会の評価		あいさつについて、保護者と生徒のアンケート結果の差はなぜなのか。				
学校関係者評価委員会の評価評価結果を踏まえた今後の改善方策		保護者のアンケートは、「お子さんはあいさつの習慣が身に付いているか？」で生徒に対しては「誰に対しても自分から大きな声で気持ちよく挨拶ができていますか？」なのでその結果が出ていると思う。(次年度は質問の文言を改良していく。)今後もあいさつ運動などの取組の強化とともに「なぜ挨拶をしなければならないか？」等の心の指導も検討していく。				

4	信頼される学校づくり・開かれた学校づくり	4-1	望ましい人間関係づくりといじめを見逃さない学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	「学校が楽しい」と感じる生徒を増やせるとともに、生徒観察や定期的なアンケート等をおして実態把握に努め、小さな変化にも組織的に対応している。 肯定的評価が A100% B95%以上 C90%以上 D90%未満	教職員アンケート 肯定的評価100% 【判定:A】	学期毎の迷惑調査や年二回の生活アンケート・QUテストで生徒の声を拾い、些細なことでも見逃さない体制ができています。担任、教科担任、学年主任、生徒指導、教育相談、部活顧問が密に連絡を取り合うことで、迷惑行為の早期発見ができています。また、行為が見つかった後の指導も、組織的に対応し、保護者に対しても丁寧に対応している。
		4-2	能力や資質の向上を目指し組織的に研究を推進するとともに、校外での研修や研究会へ積極的に参加する。	学校研究や校外の研究会や研修への参加等により指導力の向上に努めている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	教職員アンケート 肯定的評価95% 【判定:A】	研究部を中心に必要に応じて校内研究会を開催し、学校研究について様々な協議を行って共通理解をし、共通実践を行っている。また、夏休みには講師を招いて、本校の研究方針に沿った講演をしていただいたり、県外の学校を視察し、それを還元することで、教員の意識と指導力の向上に努めている。
		4-3	中高一貫教育校に対する生徒及び保護者の期待やニーズを分析し、より望まれる学校づくりを目指す。	中高一貫校の現状の公開に、積極的に努めている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	保護者アンケート 肯定的評価90% 【判定:A】	各種通信、にしきネットにより、タイムリーな情報発信を心がけている事が評価されている。また、今年度はホームページをリニューアルし、更新の頻度も上がり、保護者がより知りたいと思われる情報を発信できるようになった。今後も中高一貫校の現状を伝えられるように努力を続けていく。
				オープンキャンパスと学校説明会参加者に、十分に満足できる情報を提供することができている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	オープンキャンパス参加者アンケート 肯定的評価100% 【判定:A】	オープンキャンパスに参加した人数は昨年よりも減少したが、参加者はほぼ全員満足したと評価をしている。今後もより多くの生徒、保護者が参加し満足できるような、広報活動、在り方、内容を検討していく。
学校関係者評価委員会の評価		今年適性検査の受検者数が減った原因はどう考えているか。 他県の中高一貫校へ視察を行っている成果を是非出してほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		オープンキャンパスの時点で昨年より100名減で、特に金沢市の減少が激しい。どれが原因かはまだわかっていないが、金沢市が学校選択制から小中一貫にシフトしていったことも関係あるかもしれない。小中一貫に対して、中高一貫のメリットをもっと伝えていかなければならない。オープンキャンパスは7月だが、この時期にアナウンスしていたらもう遅いかもしれない。もっと早く行動を起こす必要がある。				